

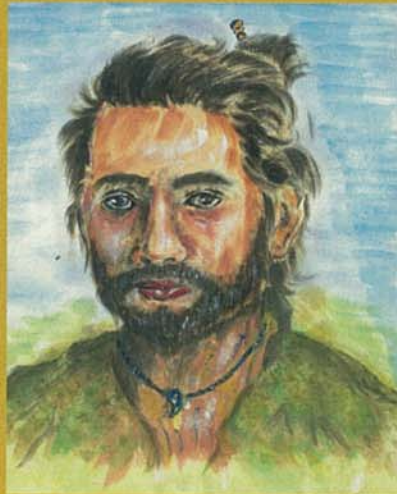


文化財保護強調週間  
Cultural Properties Protection Week



# 縄文人の暮らし

文化財  
秋季企画展



日時：平成22年10月30日（土）～11月3日（水）

午前9時～午後4時まで（最終日は午後3時まで）

場所：野々市町情報交流館カメラア 3階ギャラリー

## 縄文時代の野々市

野々市町における人々の営みは縄文時代後期前半頃（約4000年前）までさかのぼります。

縄文時代の遺跡として野々市町南部地域の粟田遺跡・末松A遺跡・清金アガトウ遺跡や、北部地域の押野大塚遺跡や御経塚シンデソ遺跡・御経塚遺跡などがあります。このうち南部地域の遺跡からは明確な住居跡はほとんど見つからず土器・石器も少量が出土しているだけでムラの跡はみつかりません。これに対し御経塚遺跡を始めとする北部地域の遺跡からは多くの住居跡や大量の土器や石器などがみつかり、大きなムラがあったことがわかっています。

野々市町北部地域は標高が10m前後の手取川扇状地扇端部に位置し、豊富な湧水わきみずに恵まれた土地でした。縄文時代の人々は水の得られやすいこの土地に竪穴住居たてあなじゅうきょや掘立柱建物ほったてばしらたてもものを建てて居住し、狩猟しゅりょう・漁労ぎょうろう・植物採集を行って生活していたのです。



御経塚のムラのように

## 土 器

土器とは、粘土をこねて器の形をつくり、それを乾燥させて火で焼いたものです。焼きあがった器は水につけても再び溶けることはなく、耐火性ももちます。

土器は、人間が化学変化を応用した最初の発明品で、人類史上における画期的なことでした。その理由は、土器を煮沸することで長時間の加熱が可能となり、食物を煮て食べることができるようになったからです。食べ物の煮炊きは、それまで食べることができなかった植物質の食料を利用することができ、食生活に大きな変化をもたらしました。



## 御経塚遺跡の縄文土器

土器の形状や文様は、時期によって変化していきます。そのため土器の形や文様などから、いつ頃の時期かを推測することができます。

北陸を代表とする縄文集落遺跡である御経塚遺跡からも、多種多様な土器がみつかっています。その中で、「<sup>さんさもん</sup>三叉文」と呼ばれる文様をもつ土器は「御経塚式土器」と呼ばれ、縄文時代晩期前葉（3300～3200年前ころ）の指標として位置づけられています。



「御経塚式土器」（3300～3200年前）

## 土 製 品

縄文時代には、土器に代表される容器のほか、土を焼いて作った様々な品物がみられます。

身体に着ける装身具そうしんぐは、勾玉に代表される石製品だけでなく、土で作られた耳飾りなどがあります。耳飾りは、幾何学的な文様きかがくてきが施ほどこされており、出土点数が極めて少ないことから、特定の限られた人しかもてなかったようです。

土偶は、土でできた人形です。形の表現から女性の姿をかたどったものがほとんどで、わざとバラバラに壊したものが多く見つかっていることから、出産という重要な事柄を意識した再生と死に関わるまじないやまつりのために使われたと考えられます。



土製耳飾り（御経塚遺跡）



土偶（御経塚遺跡）

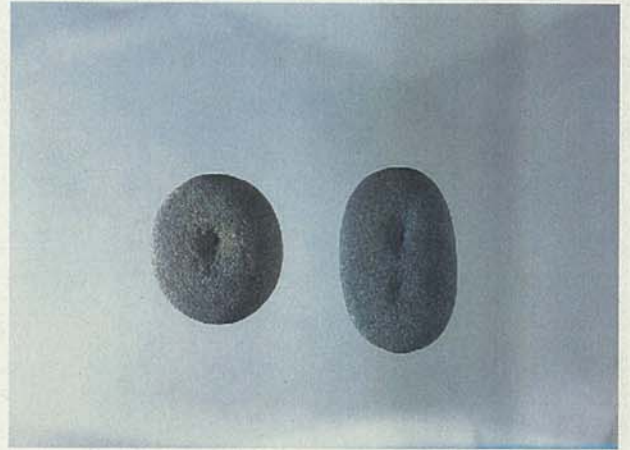
## 石 器

石器は縄文人の暮らしに直接かかわる基本的なもので、石質によって道具を作り分けるなど硬い石をたくみに利用しています。

クズ・ヤマイモなどの根茎類の採集や、クリ・クルミ・トチ・ドングリ類の木の実の加工などに使用した打製石斧・磨石・<sup>たせいせきふ</sup>敲石・<sup>すりいし</sup>磨石・<sup>たたきいし</sup>敲石・<sup>くぼみ</sup>凹石・<sup>いし</sup>石皿が遺跡から出土する石器のほとんどを占め、植物質食料に頼る生活が重視されていることが分かります。

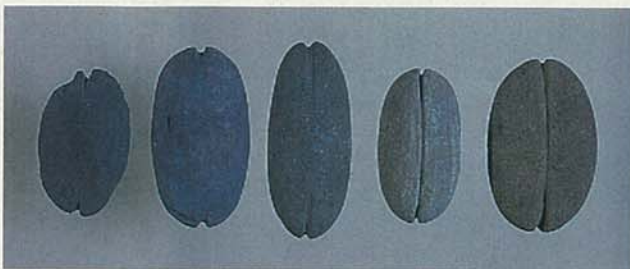


<sup>すりいし</sup>磨石と石皿（磨り潰して製粉します）



<sup>たたきいし</sup>敲石（凹石とも呼ばれ、堅いトチやドングリなどを割るのに使用しました）

その他にも狩猟や漁に使用したものや、工具として使用したものなども見つかっています。



<sup>きりめせきすい</sup>切目石錘（網で魚を獲る時使用しました）



<sup>いしきり</sup>石錐（石器や土器に孔をあける工具です）

## 装身具

現代のわたしたちが装身具を身につける目的は「おしゃれ」が一番の目的ですが、縄文人が身につける装身具は単なるおしゃれではなく、人々の中での社会的地位を示したものと考えられています。

くび  
頸や胸などを飾るまがたま・丸玉・長玉などの玉類やたれかざ  
垂飾りが遺跡から出土しています。

約120キロ離れた新潟県姫川上流産のヒスイを利用したものもあり、他地域との交流がうかがえます。

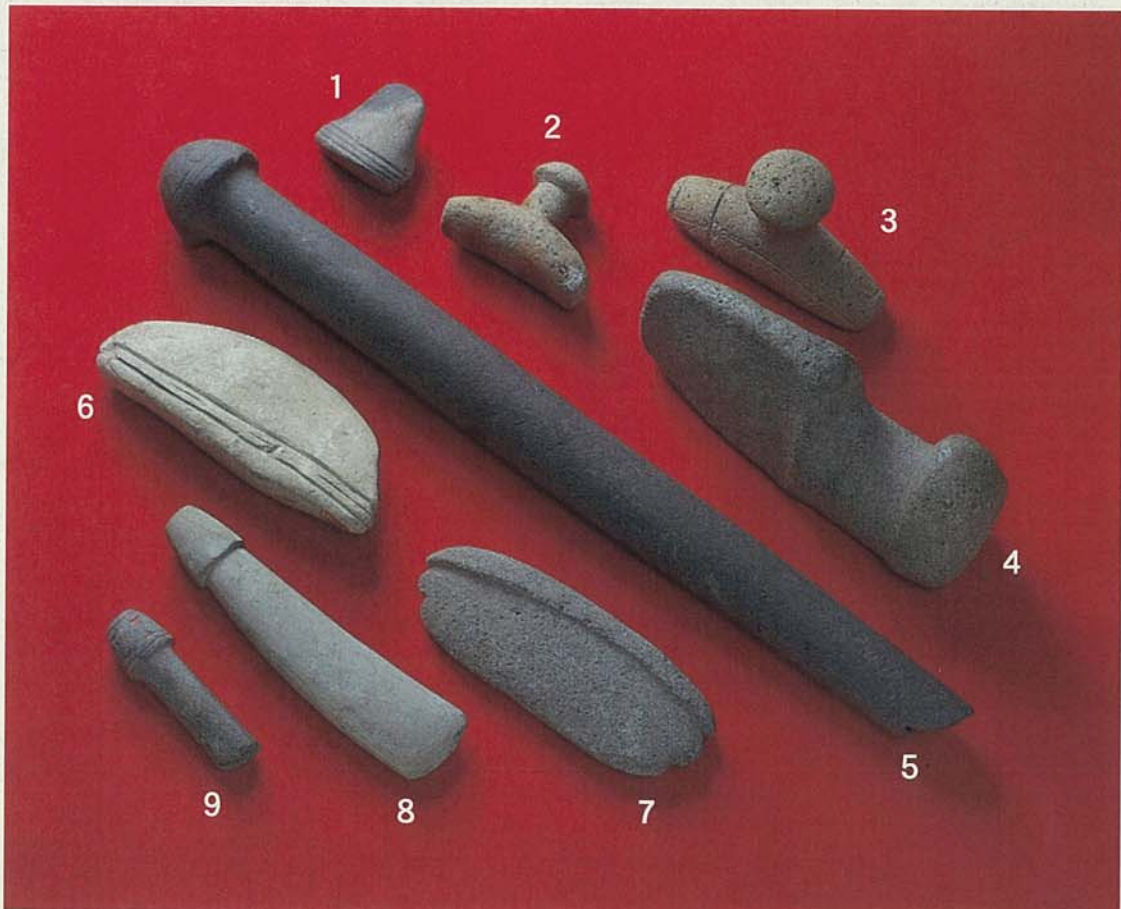


長玉 (1・4・7・13・17)・勾玉 (2~3・9・12・14・15)・丸玉 (5・18~19・21~23・25)・垂飾 (6・8・10・11) 白玉 (16・20・24・26~28)

## 不思議な道具

日々の生活の中で使用する道具である土器や石器のほかに、何に使ったか分からないものも多く見つかっています。それらはまじないやまつりに使われていたものではないかといわれていますが、具体的な使用方法はまだ分かっていません。

縄文時代の人々は、自然のめぐみを食料としてうけており、天候が安定した生活をおくることが大事なことでした。天候不順がなく、季節が順調にめぐることを願い、土偶や不思議な石製品を使ったまじないによって、人を超えた力を持つ自然に対して祈りをささげたのでしょう。



石冠（1～3・6・7）・<sup>ぎよぶつ</sup>御物石器（4）・石棒（5）・石刀（8・9）



おきょうづかいせき 御経塚遺跡 de こだいたいけん 古代体験！

御経塚遺跡のとなりにある「野々市町ふるさと歴史館<sup>れきしかん</sup>」では、毎年夏休みを利用して、むかしの人びとの生活にふれるための、いろいろなモノ作り体験をおこなっています。複雑<sup>ふくざつ</sup>な文様<sup>もんよう</sup>で飾られた縄文<sup>じょうもん</sup>土器<sup>どき</sup>や弥生時代<sup>やよいじだい</sup>のアクセサリーである勾玉<sup>まがたま</sup>、縄文時代の作り方をまねた編みカゴ作りなど、町内外の子どもたちにも大人気です。最終<sup>さいしゅう</sup>日には、作った土器をみんなで野焼き<sup>のや</sup>し、いっしょに古代調理<sup>ちようり</sup>体験としてむかしの黒米<sup>くろまい</sup>によるちまきや、鍋料理を作って楽しんでいます。みなさんもぜひ一度参加してみてください。新しい発見があるかもしれませんよ。



今年の縄文土器野焼きの様子（8月21日）